

# D-1 : ポストアワード

開催日時・会場 9月20日（木曜日）13:50-15:20 402(4階)

## プレアワード時から考えるポストアワード

URA活動の活発化のためには、各大学のURAによって実施されている多様な業務内容の中で、共有すべき情報・事例を共有することが、今後のURAの活動の強化につながり、ひいては各大学の研究力の強化につながると考えられる。中でも、プロジェクト採択後の運営にかかるポストアワードについては、事例の共有は採択校同士の交流によるものが大きく、RA協議会年次大会等、URAのネットワークの中での共有事例は未だ少ないと考えられる。

については、本セッションにおいて、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)、センター・オブ・イノベーションプログラム(COI)、新たな共用システム導入支援プログラムなど、拠点事業のポストアワード業務を実施するURAと、ファンディング機関である日本学術振興機構(JST)から登壇者を招き、URAによるポストアワード業務の事例と、ファンディング機関によるURAに求められているポストアワード業務を合わせて議論する場を設け、URAの視点・ファンディング機関の視点を交えてポストアワードの実例を議論する。本セッションにより、ポストアワード業務の事例の共有、URAの役割の理解などにかかる活発な議論を目指す。

## オーガナイザー

石川 桃絵：  
金沢大学・先端科学・イノベーション推進機構・博士研究員(URA)

金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。平成29年4月より、金沢大学先端科学・イノベーション推進機構にURAとして勤務。主にライフサイエンス分野の支援に携わる。

## 講演者



国岡由紀：  
金沢大学・ナノ生命科学研究所・特任助教（所長付きURA）

1996年金沢大学自然科学研究科博士課程修了博士（理学）取得後、1999年まで（旧）郵政省通信総合研究所でポスドク、2006年まで東京理科大学助手として生物物理学分野の研究を行う。その後12年間、JSTイノベーションプラザ、文科省地域イノベーション戦略支援事業等で、主にライフサイエンス分野の産学官連携コーディネート業務に携わる。2018年4月より現職。



柴田 裕介：名古屋大学・学術研究・産学官連携創造本部  
地域連携グループ COI推進ユニット・URA

名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期修了。博士（農学）。2014年度より名古屋大学にてJSTセンター・オブ・イノベーションプログラムのポストアワードURAとして着任。プロジェクトリーダー／研究リーダーの下、拠点の施策提案やその遂行、予算配賦／執行管理、研究進捗マネジメント、JST窓口等を担当。



佐々木隆太：北海道大学・創成研究機構  
グローバルファシリティセンター特任助教・副センター長

筑波大学生命環境科学研究科博士課程修了。京都大学農学部、生態学研究センターにて植物の環境応答に関する研究に従事後、2014年から金沢大学にてURAとして勤務。2017年より北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンターに着任し、研究基盤による新たな価値の提供、高度科学技術と社会の関係性と深化のあり方を検証。専門は、生物学、農学、科学社会学。



二階堂 知己：科学技術振興機構・産学連携展開部  
地域イノベーショングループ・副調査役マッチングプランナー

メーカーでの技術開発職を経て、当時の科学技術振興事業団（JST）に入職。以来、技術移転／産学連携支援事業に従事。特に地域科学技術振興施策関連事業が長い。途中、JSTイノベーションサテライト静岡（静岡県浜松市）に赴任し、担当エリアの地域産学官連携支援活動に従事。近年は、筑波大学にURAとして出向し、URAの定着に向けた活動に従事。その際に、縁あってRA協議会の設立にも関わらせていただいた。